2026_1110「ビルのすき間の日光連山」日々の理科 4475 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

東京都北区田端の建物の６階から、北の方角を眺めると、遠くに日光連山の山並みが見えました。手前には住宅やマンションが密集していますが、その向こうに青く霞んだ山々が堂々とそびえています。左側の大きな山は、日光を代表する男体山（標高 2486m）です。美しい円錐形の山容を持つ成層火山で、日光の象徴ともいえる存在です。その特徴的な姿から、比較的容易に名前がわかりました。

ところが、その右側に並ぶ二つの山の名前が、なかなかわかりませんでした。山座同定とは、遠くに見える山の形や位置、方位などを手がかりに、山の名前を特定することです。山は見る場所によって姿が大きく変わり、手前と奥の山が重なったり、高さの関係が違って見えたりするため、意外に難しい作業です。特に日光連山には標高 2000mを超える山々が密集しており、遠方からの同定は簡単ではありません。

そこで、撮影地点の緯度・経度をもとに、各山頂までの方位や距離を調べ、インターネット上の山岳写真とも比較してみました。決め手となったのは、山名が書き込まれた日光連山の写真でした。男体山の右側に並ぶ山々の輪郭や位置関係が、今回の写真とよく一致していたのです。その結果、男体山の右側の高い峰が大真名子山（標高 2376m）、さらに右の低い峰が小真名子山（標高 2323m）であることが確認できました。

撮影地点から山々までの距離は、およそ 120km もあります。地上からは建物に遮られて見えない山々も、少し高い場所に上がると姿を現します。何気なく眺めていた遠くの山並みも、一つ一つ名前がわかると、急に身近な存在に感じられるものです。山座同定は、地理や地形への理解を深めるとともに、都市の風景を楽しむ新たな方法でもあるのです。

（2026 年 11 月上旬／東京都北区）

